

科目名	教職概論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら学校教育を担う教職の意義、求められる教師像と教員養成の変遷、教職と教育法規、教師の職務内容、教育実習の意義と心得、現代教育における課題等について、講義やグループ討議等を通して学ぶ。また、学校教育において求められる教師の資質について考察する。
	到達目標	(1) 教職の意義や教師に求められる資質能力や職責の重さについて、国の審議会答申等も参考にしながら学び理解するとともに、教師への意欲を高める。 (2) 教育法規を学び教師としての職責や職務内容について理解を深めるとともに、具体的な事例（例：体罰と懲戒など）を通して学ぶ。 (3) 実習の意義・心得を学んで、現代教育における様々な課題等学校現場の実際にふれながら、その解決策等についてもグループ等で討議する。
授業計画	(1) 教職の意義（教職に就くということ） (2) 生徒・保護者が求める教師像とは（含むグループ討議） (3) 教育史（戦前の教員養成の変遷） (4) 教育史（戦後の教員養成の変遷） (5) 教育基本法（改正前と改正後）の比較（グループ活動中心） (6) 教育法規の種類と名称 具体例（体罰と懲戒など）を通して（グループ討議を中心に） (7) 教師の職務内容 教師の身分と服務規律 (8) 教師の身分と服務規律（演習 グループ活動） (9) 学校の組織体制と職務 (10) 学級担任の1日の業務（グループ討議を中心に） (11) 学級担任の1年の業務（グループ討議を中心に） (12) 現代教育をめぐる様々な課題 具体例（いじめ問題を考える）（グループ討議を中心に） (13) 現代教育をめぐる様々な課題 具体例（携帯電話を考える）（グループ討議を中心に） (14) 現代教育をめぐる様々な課題 具体例（保護者対応を考える）（グループ討議を中心に） (15) 教育実習の意義と心得	
自学自習	事前学習	・参考文献や配付するプリント、新聞等を活用し教育に対する関心・理解を深めること。 ・講義内容について、自分で予習をしておくこと。
	事後学習	・常に教職に対する意欲を高める行動を行うとともに、教職への適性も考察すること。 ・さらに教職についての理解と認識を深め、最終試験に備えること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。毎時間講義中に配付するプリントを使用する。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』 東京書籍 2008年 ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教師の職責や職務内容等についてよく理解し、教職（教育実習を含む）に応用できる実践的知識や態度の習得を合格の基準とする。
	方法	記述式の最終試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）により総合的に判断する。
備考	・教員免許取得希望者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育史	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。
	到達目標	西洋の近代教育思想史を学ぶことで、今日の教育に関する基本的な考え方の源流について理解できるようになる。 近世及び近現代の日本の教育史を学ぶことで、日本の教育の形成過程を理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 西洋の近代教育思想 (1) —ルソー, コンドルセ— (3) 西洋の近代教育思想 (2) —ペスタロッチ, ヘルバルト— (4) 西洋の近代教育思想 (3) —フレーベル, オーエン— (5) 西洋の近代教育思想 (4) —デューイ, モンテッソーリ— (6) 近世以前の教育史 (7) 明治時代の教育 (1) —近代教育の開始— (8) 明治時代の教育 (2) —近代教育制度の確立— (9) 大正時代の教育と大正新教育運動 (10) 昭和戦前期の教育と戦時下の教育 (11) 戦後の教育 (1) —戦後教育改革— (12) 戦後の教育 (2) —1950年代以降の教育— (13) 授業のまとめ 1 (14) 授業のまとめ 2 (15) 授業のまとめ 3	
自学自習	事前学習	参考文献を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に教材プリントを配布する。
	参考文献	勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知る—子どもと教師と学校を見つめて』あいり出版 2011年 ISBN9784901903479 ほか
成績評価の基準と方法	基準	今日の教育に関する基本的な考え方の源流や、日本の教育の形成過程について理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができる。
	方法	授業参加度 55点 定期試験 45点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育哲学	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、「教育とは何か」という本質的について、様々な教育思想（教育観）を概観しながら考えていきます。また、哲学的解釈の視座に基づき、教育における諸課題について多面的に考察していきます。
	到達目標	<p>((1)現代教育に影響を与えてきた諸学説（教育思想の類型）について理解する。</p> <p>((2)教育思想（教育観）の解釈について理解を深める。</p> <p>((3)現代教育に関わる諸問題について、哲学的解釈の視座に基づき考えることができる。</p>
授業計画	<p>(1) I. 教育哲学の本質～教育哲学とは何か～</p> <p>(2) I. 教育哲学の本質 ①教育哲学の成立と特質</p> <p>(3) I. 教育哲学の本質 ②教育の哲学的解釈</p> <p>(4) I. 教育哲学の本質 ③教育の哲学的解釈に基づく「LDT (Learning Through Discussion)」</p> <p>(5) II. 教育思想の諸類型 1) 「教」を重視する教育観 ①クリーク</p> <p>(6) II. 教育思想の諸類型 1) 「教」を重視する教育観 ②デュルケーム</p> <p>(7) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ③ルソー</p> <p>(8) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ④ペスタロッチ</p> <p>(9) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑤フレーベル</p> <p>(10) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑥モンテッソーリ</p> <p>(11) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑦デュイ</p> <p>(12) II. 教育思想の諸類型 3) 「教」と「育」を対比した「マイクロ・ダイバート」</p> <p>(13) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～①教育的価値への追及</p> <p>(14) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～②教育的関係への追及</p> <p>(15) IV. 教育哲学の課題と展望</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や提示した参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・関川悦雄 他著 『教育思想のルーツを求めて』 啓明出版 2001年 ・沼野和夫 著 『教育の原理』 学文社 2002年 ・文部科学省編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ・文部科学省編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ・文部科学省編著『生徒指導提要』 教育図書 2010年
成績評価の基準と方法	基準	・教育哲学に関わる基礎的知識を習得し、教育の哲学的知見に基づいて、現代の学校教育に対し自分の考えを述べることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	前半は、発達の要因としての遺伝と環境の影響について概説し、後半は具体的な子ども（障がい児を含む）の心身の発達を概観していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の要因としての遺伝と環境の影響についてデータから読み解ける ・各期の子どもの心身の発達についてデータから読み解ける
授業計画	(1) 発達とは (2) 遺伝と環境 (3) パーソナリティの遺伝①：人間を対象にした研究 (4) パーソナリティの遺伝②：動物を対象にした研究 (5) 初期経験の影響 (6) 初期経験としての親子関係 (7) ヒトの発達の特徴 (8) 発達の様相、胎生期と出生 (9) 新生児のできること (10) 発達段階説、各段階で子どもが学ぶこと (11) 行動発達：幼児期 (12) 行動発達：児童期 (13) 行動発達：青年期 (14) 発達障がいと特別支援教育 (15) 発達心理学の方法と問題点	
自学自習	事前学習	何回かに一回事前課題を出すのでできる範囲内で調べておくこと
	事後学習	授業を聞いた上で事前課題の回答内容について答え合わせをしておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。講義中資料を配付する。
	参考文献	矢野喜夫・落合正行『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年 中谷勝哉『行動誌入門』ナカニシヤ出版 1997年 根ヶ山光一『発達行動学の視座』金子書房 2002年
成績評価の基準と方法	基準	上記到達目標に関わる期末試験において60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間の誕生前後から死に至るまでの生涯を対象とした、発達に関する基礎的理論や捉え方を紹介する。また、さまざまな時期における対人関係が、生涯を通しての心の発達にどのような影響を及ぼすかを考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心理的発達に関する基本的な概念や理論について理解する。 人間は『関係的存在』であり、関係の質が発達を左右することを理解する。
授業計画	(1) 発達心理学とは：発達の捉え方（遺伝か環境か、…） (2) 発達研究法：横断的研究と縦断的研究、他 (3) 発達の生物学的基礎：ポルトマンの研究 (4) ヒトにおける親子関係の特徴 (5) 胎児期・乳児期の発達：身近な人との出会い (6) 幼児期の人間関係：親との関係、仲間関係、…… (7) 乳幼児期の心理臨床的問題：愛着障害、…… (8) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に）① (9) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に）② (10) 児童期の発達：仲間関係の発達過程（児童期の出会いと別れ） (11) 青年期の発達：自分探しの旅、青年期の友だちとの出会いと別れ (12) 児童期・青年期の心理臨床的問題：ギャング・エイジの喪失、… (13) 成人期の発達：大人としての社会的責任 (14) 中年期・老年期の発達と問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、授業の初めに前回の授業内容の復習を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	浜崎隆司・田村隆宏編著『やさしく学ぶ発達心理学』、ナカニシヤ出版、2011年
	参考文献	授業中に、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標が達成されたものを合格とする。
	方法	試験(70%)、授業への参加度(30%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	古典的条件づけ及びオペラント条件づけを中心とした学習の過程について講義する。各テーマにおいて多くは動物実験の話から始めるが、最終的にはヒト(子どもも含む)の学習について見ていく。さらに学習心理学の視点から子どもの行動及び心の発達についても考察する。
	到達目標	古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心とした学習のメカニズムを理解し、ヒトの学習として説明できる。
授業計画	(1) 学習とは (2) 心理学史における学習心理学 (3) 学習心理学の流れ (4) 古典的条件づけ：パブロフの実験から (5) 古典的条件づけ：嫌悪条件づけ (6) 古典的条件づけ：古典的条件づけの諸問題 (7) オペラント条件づけ：オペラント条件づけの基礎 (8) オペラント条件づけ：部分強化と強化スケジュール (9) オペラント条件づけ：強化の理論 (10) オペラント条件づけ：応用行動分析 (11) 技能の学習 (12) 社会的学習 (13) 学習理論の応用：行動療法 (14) 学習と発達 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	何回かに一事前課題を出すのでできる範囲内で調べる
	事後学習	授業を聞いた上で事前課題の回答内容について答え合わせをしておく
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中資料を配付する。
	参考文献	J. E. メイザー 『メイザーの学習心理学』 二瓶社 1996 ISBN4-931199-43-7 佐藤方哉 『行動理論への招待』 大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0 『学習指導要領』
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学Ⅱ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	前半は応用行動分析について、後半は言語行動をテーマに取り上げ学習心理学の視点から講義する。いずれの話題にも子ども（障害児を含む）の学習過程の内容を含む。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の生物学的心理学的基盤およびその学習、発達過程について理解する ・応用行動分析の基礎を理解する
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 行動分析学について (3) 応用行動分析① (4) 応用行動分析② (5) 応用行動分析③ (6) 応用行動分析④ (7) 応用行動分析⑤ (8) 応用行動分析⑥ (9) 言語行動① (10) 言語行動② (11) 言語行動③ (12) 言語行動④ (13) 言語行動⑤ (14) 言語行動⑥ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	P. A. アルバート&A. C. トルートマン『初めての応用行動分析』二瓶社 1992年 ISBN 4-931199-15-1 日本行動分析学会編『ことばと行動』ブレーン出版 2001年 ISBN 4-89242-675-X 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達障害心理学	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育現場において、近年大きな問題であり課題となっている“発達に偏りや遅れを持つ子どもたち（発達障害児）”をどう理解し援助していくかということについて、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に至った経緯とその現状を概観しながら考えていく。あわせて、具体的に（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害など主な発達障害について学習していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「特殊教育」から「特別支援教育」への転換について学ぶ。 ・ 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。 ・ 主な発達障害（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害（4）AD/HD（5）情緒障害などについて学ぶ。
授業計画	(1) 「発達障害者支援法」、「特殊から特別支援への変遷」について学ぶ。 (2) 発達障害についての概論の学習 (3) 知的障害（MR） (4) 自閉症スペクトラム（ASD）① (5) 自閉症スペクトラム（ASD）② (6) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）① (7) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）② (8) 学習障害① (9) 学習障害② (10) 情緒発達障害①不登校 (11) 情緒発達障害②行為障害 (12) 児童虐待① (13) 児童虐待② (14) 治療と援助について (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害の心理臨床 2005 田中千穂子ら 有斐閣アルマ ・ 「学習指導要領」
成績評価の基準と方法	基準	「発達障害心理学」に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育社会学	
担当者	江阪 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「教育社会学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について講ずる。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を<社会化>視点から理解する。 ・<社会化>にかかわる様々な社会集団の役割について理解する。 ・子どもの発達を現代的な社会状況と関連づけて把握できるようになる。 ・子どもの問題行動を把握しその社会的性格を理解できるようになる。
授業計画	(1) はじめに (2) 子どもの発達と社会化 (3) 家族集団と子どもの社会化 (4) 仲間集団と子どもの社会化 (5) 近隣集団と子どもの社会化 (6) 学校集団と子どもの社会化 (7) 中間まとめ (8) 少子化と子育て支援 (9) 学歴社会の変貌 (10) マス・コミュニケーションと社会化環境 (11) ニューメディアと子ども (12) 非行の現在 (13) 児童虐待 (14) 不登校・ひきこもり (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に、毎回小コメントの提出を課す。 ・授業計画の適当な節目に、テーマを与えた小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	住田・高島編著『子どもの発達社会学 教育社会学入門』北樹出版 2011年 ISBN9784779302602
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・久富/長谷川編『教育社会学』学文社 2008年 ISBN9784762016554 ・岩永/稲垣『新版教育社会学』放送大学教育振興会 2007年 ISBN9784595307010 ・A.H.ハルゼー他編、広田他編訳『グローバル化・社会変動と教育 1』東京大学出版会 2012年 ISBN9784130513173 ・A.H.ハルゼー他編、刈谷他編訳『グローバル化・社会変動と教育 2』同前 2012年 ISBN9784130513180 ・A.H.ハルゼー他編、住田他編訳『教育社会学 第三のソリューション』
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に沿って総合的に判断し一定の水準に達していれば合格。
	方法	学期末終了試験 70% 受講態度 15% 小レポート 15%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育行政概論	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育に関する社会的・制度的・経営的事項について学ぶ。
	到達目標	教育行政の原理を理解する。 教育行政の仕組みを理解する。 教育制度・行政をめぐる動向と課題を理解する。
授業計画	(1) 教育行政を学ぶ意義－教育行政の主体－ (2) 教育行政の基本原則－法律主義・民主主義－ (3) 教育行政の基本原則－地方自治と教育行政の独立性 (4) 教育行政の組織と運営－中央教育行政－ (5) 教育行政の組織と運営－地方教育行政－ (6) 学校制度の歴史と現状 (7) 学校制度の歴史と現状 (8) 学校運営と学校自治 (9) 学校と地域の連携 (10) 教育課程行政 (11) 教科書制度 (12) 教職員の養成・採用・研修 (13) 教職員の権利と義務 (14) 教育費と教育財政 (15) 教育行政の現代的課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深め、ノートを整理すること。
使用教材・参考文献	使用教材	浪本勝年ほか編『ハンディ教育六法』北樹出版 2015年
	参考文献	勝野正章ほか編『教育行政学』2015年（学文社）／横井敏郎編『教育行政学』2014年（八千代出版）坂東司郎ほか『学校生活の法律相談』2005年（学陽書房）
成績評価の基準と方法	基準	教育行政の原理および国・都道府県・市町村における教育行政の仕組みと課題を理解し論述できる。
	方法	授業中に課する小レポート 30点、期末試験 70点
備考	近年は教育委員会会議の住民への公開が広く実施されているので、傍聴することを勧める。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育課程論	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、教育課程の基本的な理論や編成基準となる『学習指導要領』との関わりを理解することにより、全ての学校教育の相互関連を担う教育課程の編成が、児童・生徒の心の問題や学力の問題など人としての成長へ大きく関与していることを理解し、教育の諸問題に対処しうる教育課程の在り方について考えていきます。
	到達目標	(1) 学校教育における教育課程の意義と編成の基本原則について理解する。 (2) 教育課程の変遷と『学習指導要領』との関わりについて理解を深めことにより、教育課程編成の基本原則について習得する。 (3) 教育課程の諸類型や学習指導過程との関わりを考察しながら、現代の学校教育における教育課程について探求することができる。
授業計画	(1) 教育課程の意義と編成原理（法規との関わりにおいて） (2) 教育課程と『学習指導要領』の変遷①（1947年、1951年） (3) 教育課程と『学習指導要領』の変遷②（1958年、1968年、1977年） (4) 教育課程と『学習指導要領』の変遷③（1989年、1998年、2008年） (5) 教育課程における「道徳」「部活動」の位置づけと教育的意義 (6) 教育課程の諸類型①（教科型カリキュラム） (7) 教育課程の諸類型②（経験型カリキュラム） (8) 教育課程の諸類型に基づく「マイクロ・ダイバート」 (9) 教育課程と学習指導の類型 (10) 教育課程と学習指導①（目標との関わり） (11) 教育課程と学習指導②（教材との関わり） (12) 教育課程と学習指導③（評価との関わり） (13) 教育課程と学習指導を巡る「LDT（Learning Through Discussion）」 (14) 諸外国における教育課程の動向 (15) 教育課程改革の課題と動向	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・樋口直弘 他著 『実践に活かす教育課程論・教育方法論』 学事出版 2013年
	参考文献	・田中耕治 他著 『新しい時代の教育課程』 有斐閣 2011年 ・文部科学省 編著 『小学校学習指導要領』 東京書籍 2008年 ・文部科学相 編著 『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ・文部科学相 編著 『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年
成績評価の基準と方法	基準	・教育課程の基礎的知識について習得し、学校教育の教育課程の編成について根拠をもって論じることができることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法 I	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講・演 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。『学習指導要領』の内容を理解し、国語表現、文学の読解、評論の読解などの指導について学ぶ。
	到達目標	学習指導要領に基づき、国語教育の内容、教材研究の方法、指導法、評価の方法を理解する。あわせて教材の分析能力を高め、学習指導案作成の方法を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション 「国語」にまつわる問題系 (2) 国語科教育の内容と方法 (3) 文学的文章の教材研究① (4) 文学的文章の教材研究② (5) 板書ノートを作ってみる (6) 学習指導案の作成と検討① (7) 学習指導案の作成と検討② (8) 学習指導案の作成と検討③ (9) 評論的文章の教材研究① (10) 評論的文章の教材研究② (11) 板書ノートを作ってみる (12) 学習指導案の作成と検討① (13) 学習指導案の作成と検討② (14) 学習指導案の作成と検討③ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	使用教材	文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 2008年 ISBN978-4-491-02380-9 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 2010年 ISBN978-4-316-30021-4
	参考文献	大柳勇治他編著『国語科指導法の実践と資料』双文社出版 ISBN978-4-88164-088-3
成績評価の基準と方法	基準	『指導要領』をしっかりと理解し、教材研究の方法と指導方法の基礎的な理論について理解できている。教材研究をすることができ、学習指導案を作成することができる。
	方法	演習発表 40%、レポート 40%、受講態度 20%。ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。実際に中学校・高等学校で使用されている教科書をもとにしながら、演習形式で国語科教育の方法を学ぶ。
	到達目標	『学習指導要領』に基づいた国語教育を実践し、授業を行える教材研究の力を身につける。その上で学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を展開することができる。
授業計画	(1) 教材研究の方法 学習指導案の作成の方法① (2) 教材研究の方法 学習指導案の作成の方法② (3) 教材研究（中学校・文学的文章） (4) 学習指導案の作成（中学校・文学的文章） (5) 模擬授業と質疑応答（中学校・文学的文章） (6) 教材研究（中学校・説明的文章） (7) 学習指導案の作成（中学校・説明的文章） (8) 模擬授業と質疑応答（中学校・説明的文章） (9) 教材研究（高等学校・文学作品） (10) 学習指導案の作成（高等学校・文学作品） (11) 模擬授業と質疑応答（高等学校・文学作品） (12) 教材研究（高等学校・評論文） (13) 学習指導案の作成（高等学校・評論文） (14) 模擬授業と質疑応答（高等学校・評論文） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 2008年 ISBN978-4-491-02380-9 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 2010年 ISBN978-4-316-30021-4
成績評価の基準と方法	基準	中学校・高等学校国語科教科書の教材をしっかりと研究することができ、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業ができる。
	方法	演習発表 70%、受講態度 30%。ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅲ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ（中・高等学校の漢文と評論文を中心に）
	到達目標	漢文と評論文のそれぞれについて、基本知識と教材研究の方法、授業における説明能力を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習スケジュールの決定 (2) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 1 (3) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 2 (4) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 3 (5) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 4 (6) 教材研究演習（漢文） 1 (7) 教材研究演習（漢文） 2 (8) 教材研究演習（漢文） 3 (9) 評論文研究の基礎 1 (10) 評論文研究の基礎 2 (11) 評論文研究の基礎 3 (12) 教材研究演習（評論文） 1 (13) 教材研究演習（評論文） 2 (14) 教材研究演習（評論文） 3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・指定された練習問題を解くこと。
	事後学習	・授業内容の復習。 ・練習問題で間違えた部分の再学習。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	『学習指導要領』を使用している。
成績評価の基準と方法	基準	中・高等学校国語科の漢文と評論の教材研究の方法と、それに基づく説明能力を習得すること。
	方法	演習発表 40%、レポート 30%、受講態度 30% ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅳ	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	中学校・高等学校の国語科教育における現代文と古文の教材研究を行い、基礎的な知識を身につけるとともに、模擬授業を通して学習指導の方法を学ぶ。
	到達目標	1) 学習指導要領を理解する。 2) 教材研究を行うことができる。 3) 現代文・古文の学習指導に必要な知識を身につける。 4) 学習指導の方法を理解し、実践することができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 学習指導案の作成方法 (3) 中学校学習指導要領について (4) 教材研究①ヘルマン・ヘッセ『少年の日の思い出』 (5) 教材研究②蓬萊の玉の枝（『竹取物語』） (6) 教材研究③太宰治『走れメロス』 (7) 教材研究④仁和寺にある法師（『徒然草』） (8) 教材研究⑤森＝外『高瀬舟』 (9) 教材研究⑥夏草（『おくのほそ道』） (10) 高等学校学習指導要領について (11) 教材研究⑦芥川龍之介『羅生門』 (12) 教材研究⑧児のそら寝（『宇治拾遺物語』） (13) 教材研究⑨中島敦『山月記』 (14) 教材研究⑩筒井筒（『伊勢物語』） (15) 総括	
自学自習	事前学習	・教材を前もって読んでおく。 ・語句の意味や表現について辞書等で事前に調べておく。 ・担当する教材を丹念に読み込み、授業計画を立て、学習指導案を完成させる。
	事後学習	・模擬授業で指摘された問題点や改善点について改めて考え、問題を解決する。 ・教材に関連する知識や情報を調べ、理解を深める。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリント等を用いる。
	参考文献	・『中学校学習指導要領解説・国語編』『高等学校学習指導要領解説・国語編』（文部科学省） ・その他、授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教材の作者や作品の特色、主題や構成について調べ、授業計画を立て、作成した学習指導案に基づいて模擬授業ができれば合格とする。
	方法	模擬授業（50点）、学習指導案（40点）、受講態度（10点）
備考	国語科教育法Ⅲを併せて履修することが望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法 I	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講・演 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。英語教育の歴史、学習指導要領、教授法、教員の役割・要件、言語習得理論、学習者論などの理論的な側面を学ぶとともに、4 技能の指導法について学習する。
	到達目標	英語教育に関する理論的な側面を理解する。
授業計画	(1) 授業概要説明、英語科教育法の履修にあたって (2) 英語教育と英語教育学 (3) 英語の国際化と日本の英語教育 (4) 学習指導要領 (5) 学習者 (6) 英語教員 (7) 小学校における外国語（英語）活動 (8) 英語教授法 (9) 第2 言語習得と英語教育 (10) コミュニケーション能力の育成 (11) リスニング (12) スピーキング (13) マイクロ・ティーチング (1) (14) マイクロ・ティーチング (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	望月昭彦 編著 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 2010年 978-4-469-24558-5
	参考文献	学習指導要領、教育職員免許法、同施行規則
成績評価の基準と方法	基準	英語教育に関する理論的な側面を理解した者は合格とする。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。
	方法	期末試験 50%、課題ほか 50%
備考	「英語科教育法Ⅱ」を履修する前に履修すること。原則として 2 年次以下の学生の履修は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法Ⅱ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。「英語科教育法Ⅰ」で学んだ知識を基にして、主に実践的な側面を学ぶ。また、模擬授業も行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指導法の実践的な側面を理解する。 基本的な英語の指導ができる。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) リーディング (3) ライティング (4) ティーム・ティーチング (5) 測定と評価 (6) e ラーニングと CALL 教室 (7) 教科書と教材研究 (8) 教科書と教材研究 (9) 語彙と辞書検索指導 (10) 授業運営 (11) 模擬授業 (1) (12) 模擬授業 (2) (13) 模擬授業 (3) (14) 模擬授業 (4) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	望月昭彦 編著 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 2010年 978-4-469-24558-5
	参考文献	学習指導要領、教育職員免許法、同施行規則
成績評価の基準と方法	基準	英語の指導法の実践的な側面を理解し、基本的な指導ができた者は合格。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。
	方法	期末試験 50%、課題ほか 50%
備考	「英語科教育法Ⅰ」を履修した後に履修すること。原則として 2 年次以下の学生の履修は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法 IV	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英語教師としての心構え、あるべき姿、指導法、教材研究法等について具体的に Think and Try する。
	到達目標	上記事項を含む英語教師としての基本的な素養を身につける。
授業計画	(1) 英語教師の資質 (2) 英語教師の資質 (3) 英語開放論 I (4) 英語開放論 II (5) 英語力強化法 I (6) 英語力強化法 II (7) Teaching methods I (8) Teaching methods II (9) Teaching methods III (10) Classroom English (11) Classroom English II (12) Teaching Plan and Procedure I (13) Teaching Plan and Procedure II (14) Teaching Plan and Procedure III (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。提出課題を準備すること。
	事後学習	返却された訂正、アドバイス付き提出課題を再読し、英語力を高める。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料(ハンドアウト)
	参考文献	高梨康雄、高橋正夫 『英語教育学概論』 北星堂書店 1991 ISBN 4-7647-0531-1 JACET 教育問題研究会 『新英語か教育の基礎』 三修社 2007 ISBN978-4-384-04054-8
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を理解し、必要なスキル、英語力を身に付けものは合格とする。
	方法	アサインメント（提出課題）70%、終了試験 30%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・地理歴史科教育法 I	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目では、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら、中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、指導内容等について学習し、特に中学校「地理的分野」「歴史的分野」の学習指導案を作成・模擬授業を行い、評価テストを作成できるようになる。また講義全体を通して、自分の進路を考える一助となるようにする。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、指導内容、評価等について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 (2) 学習指導案の立案作成や模擬授業等を通して実践的指導力を身につける。 (3) 中学校社会科の簡単な評価テストを作成できるようになる。
授業計画	(1) I 社会科・地理歴史科の先生になるということ (進路を考える) (2) II 社会科学習指導要領改訂の変遷 (3) III 中学校社会科の目標と指導内容 (学習指導要領の解釈) (4) IV 高等学校地理歴史科の目標と指導内容 (学習指導要領の解釈) 日本史 (5) 高等学校地理歴史科の目標と指導内容 (学習指導要領の解釈) 世界史・地理 (6) V 中学校地理的分野の指導法と教材研究 (7) 地理的分野の年間指導計画、学習指導案の作成 グループ活動 (8) 「世界のさまざまな地域」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (9) 「日本のさまざまな地域」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (10) 地理的分野の評価問題作成・質疑応答・相互評価 (11) VI 中学校歴史的分野の指導法と教材研究 (12) 歴史的分野の年間指導計画、学習指導案の作成 グループ活動 (13) 「古代～中世の日本」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (14) 「近世～開国と近代日本の歩み」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (15) 歴史的分野の評価問題作成・質疑応答・相互評価	
自学自習	事前学習	・毎時間、範囲(「中社地理」教科書)を示すので、予習をしておくこと。 ・教育に関する国の動き等、常に新聞記事やニュース等に注目しておくこと。
	事後学習	・講義で使用したプリントや参考文献を参考に社会科教育について理解を深めること。 ・毎時間指示する「中社地理」教科書の復習を行い、基礎的知識の定着を図ること。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配付するプリントを用いる。 五味文彦ほか著作『新しい社会 地理』東京書籍 ISBN9784487120468 五味文彦ほか著作『新しい社会 歴史』東京書籍 ISBN9784487120475 中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 ISBN 9784536590051
	参考文献	高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版 ISBN 9784316300221
成績評価の基準と方法	基準	中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標・内容・授業構成について理解し、実践的指導力の基礎を習得して、中学校社会科の学習指導案を立案・作成、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	基礎基本を問う最終試験(50%)、模擬授業・学習指導案(30%)・評価問題(10%)、受講態度(10%)を目安に、総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。 ・「社会科・地理歴史科教育法Ⅱ」の履修前に必ず本科目を履修すること。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目では、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導法について学習する。特に、中学校社会科歴史的分野・高等学校地理歴史科の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、中学校歴史的分野・高等学校地理歴史科の学習指導案を作成・模擬授業を行い評価テストを作成できるようになる。また講義全体を通して、自分の進路を考える一助となるようにする。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、指導内容、評価について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 (2) 中学校社会科・高等学校地理歴史科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成や実践的指導力を身につける。 (3) 中学校社会科・高等学校地理歴史科の簡単な模擬授業を行い、評価テストを作成できるようになる。
授業計画	(1) I 中学校歴史的分野の指導法と教材研究 (2) 歴史的分野の学習指導案の作成 (含むグループ活動) (3) 「開国～二度の世界大戦と日本」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (4) 「二度の世界大戦と日本」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (5) 「現代の日本と世界」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (6) 歴史的分野の評価問題作成・質疑応答・相互評価 (7) II 選択「日本史B・世界史B・地理B」の目標と指導内容 (学習指導要領の解釈) (8) 選択「日本史B・世界史B・地理B」の指導法と教材研究 (9) 選択「日本史B・世界史B・地理B」の年間指導計画の作成 (含むグループ活動) (10) 選択「日本史B・世界史B・地理B」の学習指導案の作成 (11) 選択「日本史B」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (12) 選択「世界史B」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (13) 選択「地理B」の模擬授業・質疑応答・相互評価 (14) 選択「日本史・世界史・地理」の評価問題作成・質疑応答・相互評価 (15) III 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ 全体まとめ	
自学自習	事前学習	・毎時間、範囲(「中社歴史」教科書)を示すので、予習をしておくこと。 ・教育に関する国の動き等、常に新聞記事やニュース等に注目しておくこと。
	事後学習	・講義で使用したプリントや参考文献を参考に社会科教育について理解を深めること。 ・毎時間指示する「中社歴史」教科書の復習を行い、基礎的知識の定着を図ること。 ”
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配付するプリントを用いる。 五味文彦ほか著作『新しい社会 歴史』東京書籍 ISBN9784487120475 各自で準備⇒選択「日本史B・世界史B・地理B」の教科書 高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版 ISBN 9784316300221
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 ISBN 9784536590051
成績評価の基準と方法	基準	中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標・内容・授業構成について理解し、実践的指導力の基礎を習得して、中学校社会科の学習指導案を立案・作成、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	基礎基本を問う最終試験(50%)、模擬授業・学習指導案(30%)・評価問題(10%)、受講態度(10%)を目安に、総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。 ・「社会科・地理歴史科教育法Ⅰ」を履修した後に本科目を履修すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・公民科教育法 I	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら、中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。中学校社会科と高等学校公民科の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学び、実際に学習指導案を作成・模擬授業を行い、評価テストを作成できるようになる。また、講義内容を通して、自分の進路を考える一助となるようにする。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校公民科の目標、指導内容、評価方法について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 (2) 中学校社会科・高等学校公民科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成の方法や実践的指導力を身につける。 (3) 中学校社会科「公民的分野」・高等学校「現代社会」の模擬授業を行い、簡単な評価問題を作成・評価できるようになる。
授業計画	(1) I 社会科・公民科の先生になるということ(進路を考える) (2) 社会科学習指導要領改訂の変遷 (3) II 中学校社会科の目標(学習指導要領より) (4) 中学校社会科の指導内容(学習指導要領より) (5) III 高等学校「公民科」の目標と指導内容(学習指導要領より) (6) IV 中学校社会科の指導法と教材研究の方法 (7) 中学校社会科の年間指導計画・学習指導案の作成(グループ活動を中心に) (8) V 中学校社会科「公民的分野」の授業実践「人間の尊重と日本国憲法」・質疑応答・相互評価 (9) 「公民的分野」の授業実践「民主政治と社会」・質疑応答・相互評価 (10) 「公民的分野」の授業実践「くらしと経済」・質疑応答・相互評価 (11) 「公民的分野」の評価問題作成・質疑応答・相互評価 (12) VI 高等学校「現代社会」の模擬授業「青年期と現代社会」・質疑応答・相互評価 (13) 「現代社会」の模擬授業「民主政治と日本国憲法」・質疑応答・相互評価 (14) 「現代社会」の模擬授業「現代経済と経済活動のあり方」・質疑応答・相互評価 (15) 「現代社会」の評価問題作成・質疑応答・相互評価	
自学自習	事前学習	・毎時間、範囲(「中社公民」教科書)を示すので、予習をしておくこと。 ・教育に関する国の動き等、常に新聞記事やニュース等に注目しておくこと。
	事後学習	・講義で使用したプリントや参考文献に基づき、社会科教育について理解を深めること。 ・毎時間指示する「中社公民」教科書の復習を行い、専門的知識の定着を図ること。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配付するプリントを用いる。 五味文彦ほか著作『新しい社会 公民』東京書籍 ISBN9784487120482 河合秀和監修『最新現代社会』教育出版 ISBN9784316202327 中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 平成20年 ISBN 9784536590051
	参考文献	高等学校学習指導要領解説『公民編』教育出版 平成22年 ISBN 9784316300238
成績評価の基準と方法	基準	中学校社会科・高等学校公民科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、中学校社会科・高等学校「公民科」(「現代社会」)の学習指導案を立案・計画、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	基礎基本を問う最終試験(50%)、模擬授業・学習指導案(30%)・評価問題(10%)、受講態度(10%)を目安に、総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。 ・「社会科・公民科教育法II」の履修前に、必ず本科目を履修すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講・演 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。特に、高等学校公民科（現代社会、倫理、政治・経済）の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、学習指導案を作成・模擬授業を行い評価テストを作成できるようになる。また講義内容を通して、自分の進路を考える一助となるようにする。
	到達目標	<p>(1) 学習指導要領に基づき、社会科・公民科の目標、指導内容、評価方法について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。</p> <p>(2) 高等学校公民科（現社、倫理、政経）の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成や実践的指導力を身に付ける。</p> <p>(3) 高等学校公民科（現社、倫理、政経）の模擬授業と簡単な評価テストを作成できるようになる。</p>
授業計画	<p>(1) I 高等学校公民科「現代社会」の指導法と教材研究</p> <p>(2) 「現代社会」の学習指導案の作成</p> <p>(3) 「現代社会」の模擬授業「民主政治と日本国憲法」、質疑応答、相互評価</p> <p>(4) 「現代社会」の模擬授業「現代経済と財政・金融」、質疑応答、相互評価</p> <p>(5) 「現代社会」の評価問題作成、考察、質疑応答、相互評価</p> <p>(6) II 高等学校公民科「倫理社会」の指導法と教材研究</p> <p>(7) 「倫理社会」の学習指導案の作成</p> <p>(8) 「倫理社会」の模擬授業「現代社会の倫理」、質疑応答、相互評価</p> <p>(9) 「倫理社会」の模擬授業「国際社会に生きる日本人の倫理」、質疑応答、相互評価</p> <p>(10) 「倫理社会」の評価問題作成、考察、質疑応答、相互評価</p> <p>(11) III 高等学校公民科「政治・経済」の指導法と教材研究</p> <p>(12) 「政治・経済」の学習指導案の作成</p> <p>(13) 「政治・経済」の模擬授業「現代の政治」、質疑応答、相互評価</p> <p>(14) 「政治・経済」の模擬授業「現代の経済」、質疑応答、相互評価</p> <p>(15) 「政治・経済」の評価問題作成、考察、質疑応答、相互評価</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、範囲（「中社公民」教科書）を示すので、予習をしておくこと。 ・教育に関する国の動き等、常に新聞記事やニュース等に注目しておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用したプリントや参考文献に基づき、社会科教育について理解を深めること。 ・毎時間指示する「中社公民」教科書の復習を行い、専門的知識の定着を図ること。
使用教材・参考文献	使用教材	<p>講義中に配付するプリントを用いる。</p> <p>河合秀和監修『最新現代社会』教育出版 ISBN9784316202327</p> <p>菅野覚明ほか著作『高等学校 新倫理』清水書院 ISBN9784389600129</p> <p>伊東光晴執筆・監修『新版 政治・経済』ISBN9784407201130</p> <p>高等学校学習指導要領解説『公民編』教育出版 平成22年 ISBN 9784316300238</p>
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 平成20年 ISBN 9784536590051
成績評価の基準と方法	基準	中学校「公民的分野」・高等学校公民科の目標・内容・授業構成について理解するとともに、実践的指導力の基礎を習得し、高等学校公民科（現代社会、倫理社会、政治・経済）の学習指導案を計画・立案、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	基礎基本を問う最終試験（50%）、模擬授業・学習指導案（30%）・評価問題（10%）、受講態度（10%）を目安に、総合的に評価します。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。 ・「社会科・公民科教育法Ⅰ」を履修した後に本科目を履修すること。 	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	道徳教育の指導法 I	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成 24 年度以前入学生「道徳教育の研究」、平成 25・26 年度入学生「道徳教育の指導法」	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育における道徳教育の意義と目的について理解し、また、道徳教育の変遷や諸理論を概観することにより、道徳教育の実践的展開について考察を深めながら授業を構想することのできる指導力を目指します。
	到達目標	(1) 学校教育における道徳教育の意義と目的、諸理論について理解することができる。 (2) 道徳教育の変遷について理解を深めることにより、実践的展開について考察することができる。 (3) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』に基づいて、道徳の授業を構想することができる。
授業計画	(1) 道徳教育の意義（学校教育における道徳教育の位置） (2) 道徳観の諸思想①（東洋思想に基づいて） (3) 道徳観の諸思想②（西洋思想に基づいて） (4) 道徳観の諸思想に基づく「LDT (Learning Through Discussion)」 (5) 道徳教育の変遷 (6) 道徳性の発達（コールバーグ論に基づく道徳性の発達） (7) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の解釈①（改定の経緯と主旨） (8) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の解釈②（目標について） (9) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の解釈③（内容について） (10) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の解釈④（評価と指導上の留意点） (11) 道徳授業の実践事例検討①（目標観、指導観、授業観について） (12) 道徳授業の実践事例検討②（導入・展開・終結について） (13) 道徳授業の実践事例検討③（授業形態、発問構成、ワークシート等について） (14) 道徳の授業実践における「振り返りシート」を用いた「ピア・ラーニング」 (15) 教育改革に基づく「特別の教科 道徳」における今後の動向	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に基づいて道徳教育への理解を深めること。 ・倫理観やモラル観に関する新聞記事等を通して、道徳教育の在り方について自らの考えを深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省編著 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』 日本文教出版 2016 年 ・文部科学省編著 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』 東洋館出版 2016 年
	参考文献	・文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍 2016 年 ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 2016 年 ・文部科学相 『生徒指導提要』 教育図書 2010 年 ・文部科学省 『私たちの道徳 中学校』 廣済堂あかつき 2014 年 ・教師養成研究会編著 『道徳教育の研究』 学芸図書 2009 年
成績評価の基準と方法	基準	・学校教育における道徳教育の意義と目的を理解し、様々な道徳観や『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の解釈に基づいて、道徳教育の実践的指導について考察を深めることができることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）
備考	・中学校教員免許資格取得者は全員必修。（教員免許資格取得者を主とする。）	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	道徳教育の指導法Ⅱ	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、現行の『中学校学習指導要領 道徳編』及び改正『中学校学習指導要領 道徳編（平成31年度実施予定）』に示された道徳教育の目標・内容・指導方法に基づいて、道徳授業の学習指導案を作成することのできる実践的指導力を養っていきます。
	到達目標	(1) 『中学校学習指導要領（道徳編）』の目標・内容・指導方法について理解する。 (2) 指導資料に基づいて、授業展開を構想することができる。 (3) 道徳授業の学習指導案を作成することができる。
授業計画	(1) 『中学校学習指導要領（道徳編）』に基づく道徳の目標について (2) 『中学校学習指導要領（道徳編）』に基づく道徳の指導内容について (3) 道徳の授業の学習指導案作成1：単元目標について (4) 道徳の授業の学習指導案作成2：教材観について (5) 道徳の授業の学習指導案作成3：指導観について (6) 道徳の時間における指導法1：学習指導案の作成 (7) 道徳の時間における指導法2：学習指導案の検討 (8) 道徳の時間における指導法3：学習指導案の完成 (9) 道徳の時間の模擬授業1：「主として自分自身に関すること」 (10) 道徳の時間の模擬授業2：「主として他の人との関わりに関すること」 (11) 道徳の時間の模擬授業3：「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」 (12) 道徳の時間の模擬授業4：「主として集団や社会との関わりに関すること」 (13) 道徳の時間の模擬授業の振り返り1：学習指導過程について (14) 道徳の時間の模擬授業の振り返り2：学習指導の工夫と評価について (15) 今後の課題と「特別の教科 道徳」について	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に基づいて道徳教育への理解を深めること。 ・倫理観やモラル観に関する新聞記事等を通して、道徳教育の在り方について自らの考えを深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版 2008年 ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』(2016年出版予定) ・近藤茂編著『中学生の道徳1年・2年・3年（鹿児島県版）』 学研教育みらい 2015年
	参考文献	・文部科学省 『生徒指導提要』 教育図書 2010年 ・文部科学省 『私たちの道徳 中学校』 廣済堂あかつき 2014年 ・教師養成研究会編 『道徳教育の研究』 学芸図書 2009年
成績評価の基準と方法	基準	・『中学校学習指導要領（道徳編）』の目標や指導内容に基づいて、道徳授業の学習指導案を作成し授業実践することができることを合格の基準とします。
	方法	・最終レポート（30%）、模擬授業（30%）、指導案作成（30%）、授業参加態度（10%）
備考	・「道徳教育の指導法Ⅰ」を履修した者 ・教員免許資格取得者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教科外活動論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、常にアクティブ・ラーニングを念頭に意識しながら学校教育における教科外活動（主に特別活動）の基本的性格とその教育的意義について、学習指導要領等を用いて理解を深め、教科外活動を通じた生徒理解や指導の在り方等について習得するとともに、「学級活動」の実際を体験することで合意形成の仕方や進路選択を考える機会とする。
	到達目標	(1) 学校教育における教科外活動（主に特別活動）の教育的意義と教科内容をよく理解し、実践的指導方法を習得する。 (2) 教科外活動の学習を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする自主的態度を備えた生徒を育てようとする意欲を持つようにする。 (3) 「学級活動」の実際を体験することで合意形成の仕方や進路選択を考える機会とする。
授業計画	(1) I 学校教育における教科外活動の目標と内容（小学校・中学校） (2) 学校教育における教科外活動の目標と内容（高等学校・特別支援学校） (3) II 学習指導要領の変遷（戦前の教科外活動を中心に） (4) 学習指導要領の変遷（戦後の教科外活動を中心に） (5) III 教科外活動の指導内容（「学級活動」指導案作成について）グループ活動中心 (6) 教科外活動の指導内容（「学級活動」指導案作成 例：携帯電話）グループ活動中心 (7) 教科外活動の指導内容（「学級活動」の実際（話し合いのテーマ決定）） (8) 教科外活動の指導内容（「学級活動」の実際（話し合いの方法）） (9) 教科外活動の指導内容（「学級活動」の実際（合意形成のあり方と実践）） (10) 教科外活動の指導内容（「学級活動」の実際（発表に対する評価）） (11) 教科外活動の指導内容（「学級活動」体罰・いじめ問題を考える）グループ活動中心 (12) IV 教科外活動と生徒指導との関連 (13) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導 (14) 生徒会活動・クラブ活動・課外活動・部活動の内容と指導 (15) V 教科外活動の評価（学習指導要領から）、展望と課題	
自学自習	事前学習	・参考文献や配付するプリント、新聞等を活用し教育に対する関心・理解を深めること。 ・『学習指導要領』をよく読んで理解しておくこと。
	事後学習	・常に教職に対する意欲を高める行動を行うとともに、教職への適性も考察すること。 ・さらに教職についての理解と認識を深め、最終テストに備えること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配付するプリントを用いる。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』 東京書籍 2008年 ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教師の職責や職務内容等についてよく理解し、教職（教育実習を含む）に応用できる実践的知識や態度の習得を合格の基準とする。
	方法	記述式の最終試験（50%）、模擬授業（30%）、受講態度（20%）により総合的に判断する。
備考	・教員免許取得希望者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育メディア論	
担当者	山本 朋弘 / YAMAMOTO, Tomohiro	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） (5)教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 教育の情報化が進展し、ICT（情報通信技術）を活用した指導の充実が求められている。本授業では、タブレット端末や電子黒板、インターネット等を取り上げ、ICTを活用した授業の設計や教材開発、学習評価等、授業でのICT活用の基礎を学ぶ。
	到達目標	教育課題の解決にICTが果たす役割について理解するとともに、タブレット端末や電子黒板等のICTを活用した授業での教材開発や授業設計の基礎を学ぶ。また、ICTを活用した授業での教材や指導案を作成し、他と共有・協議しながら、授業実践に関する実践的能力を身につける。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 教育の情報化に関する現状と課題 (3) 教材開発と学習評価 (4) 教材作成のシステム設計 (5) 教師のICT活用指導力 (6) 教材企画書の作成〔課題1〕 (7) 相互評価・改訂版の作成 (8) ICT活用による教材作成 (9) タブレット活用と学習支援システム (10) 授業案の作成〔課題2〕 (11) 情報活用能力の育成 (12) ICTを活用した授業の設計 (13) 授業案の発表と相互評価・改訂〔課題3〕 (14) 授業研究と授業設計の流れ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用教材を必要に応じて読む。 ・ 意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・ 小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領及び解説 ・ 文部科学省「教育の情報化に関する手引」
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・フォーラムへの投稿（20%）、課題1（20%）、課題2（30%）、課題3（30%）の累積で評価する。
備考	教育実習を希望する者は、事前に本科目の履修が必要。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育とよばれる事象の中から心理学に関連した問題を取り上げる。従来から心理学の主な関連領域としては発達、学習、適応、評価などが研究されてきたが、この教育心理学Ⅰでは発達と学習を中心に講義する。
	到達目標	1. 発達という側面が教育活動にどのような形で関わってくるのかその必然性やメカニズムについて理解し、説明できるようになること。 2. 学習にはいろいろな種類やメカニズムが存在することや、それらが教育活動とどのように関連してくるのかについて理解し、説明できるようになること。
授業計画	(1) 発達と教育（遺伝と環境、成熟説と学習説） (2) 乳幼児における認知の特徴 (3) ピアジェの認知発達段階説（1） (4) ピアジェの認知発達段階説（2） (5) 言語発達と教育、乳幼児期の言語発達 (6) 学童期の読書と作文 (7) 社会性と社会的スキルの発達 (8) 道徳性と向社会性の発達 (9) 記憶のプロセス (10) 記憶と効果的な学習法 (11) 個人差に応じる指導（適性処遇交互作用） (12) 個人差に応じる指導（学習到達度の個人差） (13) 個人差に応じる指導（認知スタイルと興味の個人差） (14) 学習過程による授業の分類（1） (15) 学習過程による授業の分類（2）	
自学自習	事前学習	例次回の講義に関連したキーワードやトピックに関して予備知識を与え、調べさせておく ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	前回の授業の概略を振り返り、主要な概念の理解を再確認させる。
使用教材・参考文献	使用教材	北尾倫彦他著「コンパクト教育心理学」 北大路書房
	参考文献	その都度、適宜提示する。
成績評価の基準と方法	基準	1. 発達を考慮した教育活動の必要性が理解できていること。 2. 学習のタイプに応じた教育活動について、概略説明できるようになること。
	方法	最終筆記試験（70点）、授業への参加度（30点）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校臨床論	
担当者	◎神菌 紀幸 / 白井 祐浩 / 松田 君彦	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、今日の学校教育における諸問題について考える上での基本的な理論や考え方を学び、様々な視点を持つ心理学的な知見をもとに、その克服の方途を考えていく。 また、生徒指導の理論及び方法について学ぶ。
	到達目標	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) I. 組織としての学校と学校教育 ① (3) I. 組織としての学校と学校教育 ② (4) I. 組織としての学校と学校教育 ③ (5) I. 組織としての学校と学校教育 ④ (6) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ① (7) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ② (8) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ③ (9) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ④ (10) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ① (11) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ② (12) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ③ (13) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ④ (14) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ⑤ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義中に理解が不十分であった事柄については、関連する図書や資料等にあたり、補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	「学習指導要領」。その他必要に応じて、授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ることを合格の目安とする。
	方法	本講義は3名の教員によるオムニバス形式で行われ、最終評価は各教員による評価得点を合算したものによる。
備考	授業内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教職実践演習	
担当者	入江・岩橋・神菌・木下・野浪・◎原之園・三浦卓・山喜（高）	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、教師を目指す者として、大学4年間で習得したことや教育実習の経験、さらには「履修カルテ」に基づき自己省察し、教員に求められる必要な資質や能力について醸成させる。また、教員としての使命感や責任感を確認し、さらには、生徒理解や教科指導等についての探究を通して教員としての自覚、及び実践的指導力の統合を目指す。
	到達目標	教員として求められる資質・能力、さらには、確かな実践的指導力の獲得を理論と実践の統合をはかりながら目指す。具体的には、次の4つの事項を目標とする。 (1) 教師の使命感や責任感、教育的愛情等について再考し理解する。 (2) 教師に求められる社会性や対人関係能力について理解し、他者とコミュニケーションを図ることができる。 (3) 児童・生徒理解や学級経営等に関して理解を深め自分なりの意見を述べるができる。 (4) 教科内容等に基づいた実践的指導力を身につけ、授業展開の向上を図ることができる
授業計画	(1) オリエンテーション（授業の目的と概要・教育実習や「履修カルテ」に基づく自己省察） (2) 1. [使命感、責任感、教育的愛情]：「学校現場の理解（1）」（教師の役割、学級経営、職務内容の振り返り） (3) " :「学校現場の理解（2）」（教師の姿：ゲストティチャーによる講話） (4) 2. [社会性、対人関係能力] :「教師に求められる社会性・対人関係能力（1）」 (5) " :「教師に求められる社会性・対人関係能力（2）」 (6) " :「学校づくりと地域や保護者との連携」 (7) 3. [児童生徒理解] :「発達に基づく児童生徒理解（1）」 (8) " :「発達に基づく児童生徒理解（2）」 (9) " :「児童生徒理解に基づく支援・指導への再考」 (10) " :「児童生徒理解と道徳教育への探求」 (11) 4. [教科指導力] :「指導計画と教材研究」 (12) " :「模擬授業（1）」 (13) " :「模擬授業（2）」 (14) " :「模擬授業（3）」 (15) 総括（求める教師像や「履修カルテ」に基づく自己省察・自己課題の探究・自己評価）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教育実習の経験や「履修カルテ」に基づき、教員を目指す者として自己の課題を探究し、教員に求められる資質や能力について自己省察し理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN:9784827814613 ・文部科学省 編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN:9784827814781 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』（国語編、社会編、外国語編、道徳編、特別活動編） ぎょうせい 2008年 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説』（国語編、地理歴史編、公民編、外国語編・英語編、特別活動編） 実況出版 2009年
	参考文献	・文部科学省 編著『生徒指導提要』 教育図書 2010年 ISBN:9784877302740 ・西岡加名恵著 『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:4623066517
成績評価の基準と方法	基準	授業を通して教員として求められる資質・能力の4つの事項、「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「②社会性や対人関係能力に関する事項」「③児童生徒理解や学級経営等に関する事項」「④教科内容等の指導力に関する事項」を理解し、これ

		<p>ら4つの事項に基づいて教員としての自己課題を発見し、また、その改善策を自己探求できることを合格の基準とする。</p> <p>さらには、「履修カルテ」に基づき教員として求められる資質・能力について自己評価・自己省察できることを合格の基準とする。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各フェーズ毎に担当者が評価（40%） ・「履修カルテ」に基づき、各フェーズ毎に到達度を自己評価（20%） ・総括レポート（40%）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許資格取得者（中学校・高等学校）は必修。 	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校インターンシップ A	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前・後期 / 実習 / 1単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本科目は、常にアクティブ・ラーニングを意識しながら学校インターンシップを通して、教職に関する職務内容や児童生徒への理解を深め、教員として求められる資質・能力や実践的指導力などを総合的に幅広く高めていくことを目指す。さらに実際の教育現場で教職に関する職務を学ぶ機会や体験を通して、深く自ら進路を考えるきっかけとする。
	到達目標	(1) 学校現場での就業体験を通して、教員の職務内容について理解を深める。 (2) 学校現場での就業体験を通して、児童生徒への理解を深めるとともに実践的な指導力を身に付ける。 (3) 学校現場での就業体験を通して、学校と家庭・地域社会との連携のあり方を学び教員の役割について体得する。
授業計画	(1) 事前指導（インターンシップの意義と心構えについて） (2) ○ (3) ○ (4) ○ (5) ○ (6) 「中学校における1週間のインターンシップ」 (7) （登校指導、朝のあいさつ運動、教科（国語、数学、 (8) 英語）の学習活動支援、教科プリントの印刷作業補 (9) 助、給食時の支援、花壇の花植作業、図書の除籍作 (10) 業、部活動指導の研修・補助、特別支援の必要な生 (11) 徒への支援など） (12) ○ (13) ○ (14) ○ (15) 事後指導（インターンシップの報告、レポート作成）	
自学自習	事前学習	・学校教育に関する時事問題等をよく把握しておくこと。 ・インターンシップを行う学校現場のことをよく理解しておくこと。
	事後学習	・文献で学んだ知識と学校インターンシップ（学校現場での体験）で学んだことを通して、教職に関する職務内容や実践的指導力への理解を深めること。 ・学校教育に関する新聞記事等に関心を持ち、自分だったらこうするという意識を持つとう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。適宜、配付するプリントを用いる。実習の記録をすること。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍 2008年 ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房 2009年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教職に関する職務内容や生徒を多角的に理解し、総合的な観点から実践的指導論を述べるができることを合格の基準とする。
	方法	実践報告レポート（80%）、事前指導・事後指導の態度（20%）を含めて総合的に判断する。
備考	・教職課程のエントリー者であり、小学校における学校支援ボランティア経験者であること。 ・中学校におけるインターンシップ（夏季休業期間または春季休業期間を用いた1週間）である。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	専門資料論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修 (ただし平成 23 年度以前の入学生のみ)	
科目概要	授業内容	大学における学問・研究を支える専門資料とは何かを理解する
	到達目標	人文・社会・自然科学の専門分野に関する学術情報やその利用、資料の種類や特徴について学ぶ。
授業計画	(1) 専門資料とは何か (2) 一次資料と二次資料 (3) 資料としての原典 (4) 専門資料を扱う (5) 書誌と書誌学 (6) 専門書誌学 (7) 人文科学分野の情報と資料 (8) 社会科学分野の情報と資料 (9) 自然科学分野の資料と情報 (10) 書誌の諸相 (11) 専門資料の保存と記録 (12) 専門資料のこれから (13) 専門資料の検索 (14) 専門資料の活用 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業の後にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	三浦逸雄/野末俊比古『JLA 図書館情報学テキストシリーズ 専門資料論 (新訂版)』日本図書館協会 2010 年 ISBN4820409243
	参考文献	戸田光昭 (編集)『専門資料論』樹書房 2000 年 ISBN4-88367-008-2
成績評価の基準と方法	基準	「専門資料」について概要を理解したものは合格とします。
	方法	試験 60%。レポート 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館概論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	公共図書館、大学図書館、学校図書館についてそれぞれの図書館の特色・機能・役割について学ぶ。急激な社会の変化と共に求められる図書館の姿も激変しているが、今後の図書館のあり方についても考察を深めながら、図書館の基本事項を幅広く概説する。
	到達目標	①公共図書館、大学図書館、学校図書館の特色・機能・役割を理解する。②図書館員としての資質を高めるためのスキルを学ぶ。③最近の図書館の動向を理解する。④最近の図書館の設計・デザインの動向を学ぶ。
授業計画	(1) 図書館の意義と役割 (2) 図書と図書館の歴史 (3) 図書館の自由と図書館員の倫理綱領 (4) 図書館の種類 公共図書館Ⅰ（図書館法規と行政、施策） 図書館法/国立国会図書館/ (5) 図書館の種類 公共図書館Ⅱ（制度と機能） 全国の先駆的な活動をしている公共図書館の紹介 (6) 図書館の種類 公共図書館Ⅲ（鹿児島県の公共図書館） 県立図書館/公民館/指宿市立図書館 他 (7) 図書館の種類、大学図書館Ⅰ（図書館法規、制度と機能） 全国の大学図書館の紹介 (8) 図書館の種類、大学図書館Ⅱ（鹿児島県の大学図書館） 図書館写真/蔵書構成/リポジトリ (9) 図書館の種類、学校図書館Ⅰ（図書館法規、基準、全国 SLA） 学校図書館法・SLA 基準/基本図書 (10) 図書館の種類、学校図書館Ⅱ（小学校・中学校・高校） 各学校の図書館運営内容/図書館格差図書 (11) 図書館の種類、学校図書館Ⅲ（鹿児島県の学校図書館）、図書館行政（図書館行政と図書館政策） (12) 図書館相互協力とネットワーク、およびボランティア活動 個性化する学校図書館へ/読み聞かせ等 (13) 図書館の施設と設備（施設図書館配置計画等） (14) 図書館の施設と設備（建築計画書・最近の技術等） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業の後にレポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	北嶋武彦（編著）『図書館概論』東京書籍 2001年 ISBN4-487-71472-9
成績評価の基準と方法	基準	図書館の機能や社会における意義や役割について理解したものは合格とします。
	方法	試験 70%、レポート 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館制度・経営論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館制度はどのような法的根拠から成立しているのだろうか。これまでの公的施設としての図書館は、TSUTAYAをはじめとする民間指定業者による図書館経営等と変化してきている。21世紀における未来志向の図書館経営とその課題等について学ぶ。
	到達目標	図書館に関する法律や図書館政策を学ぶことにより図書館制度や図書館経営の考え方について理解を深める。また新しい図書館の動向を学び、今後の図書館経営のあり方と諸課題について考察する。図書館経営をソフト面だけでなくハード面からもとらえて図書館経営の柔軟な発想を培う。
授業計画	(1) オリエンテーション（図書館制度と図書館経営） (2) 公共図書館における法的根拠（図書館法 他） (3) 大学図書館における法的根拠（大学設置基準 他） (4) 学校図書館における法的根拠（学校図書館法 他） (5) 他館設置基準（身体障害者福祉法 他） (6) 図書館サービス関連法規（著作権法 他） (7) 公共図書館経営（組織構成と職員） (8) 公共図書館経営（図書館業務～評価） (9) 大学図書館経営（組織構成と職員） (10) 大学図書館経営（図書館業務～評価） (11) 学校図書館経営（組織構成と職員） (12) 学校図書館経営（図書館業務～評価） (13) 民間指定業者（組織構成と職員、図書館業務～評価） (14) 図書館の施設・整備 1 (15) 図書館の施設・整備 2	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業の後にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	二村 健【監修】/手嶋 孝典【編著】『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 図書館制度・経営論』学文社 2013年 ISBN 4762021954 ほか
成績評価の基準と方法	基準	図書館に関する法律とその内容を把握したものは合格とします
	方法	テスト 70%、レポート 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館サービス概論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	公共図書館、大学図書館、学校図書館の特色・機能・役割を再確認し、利用者と直接関わるさまざまな図書館サービスについて学ぶ。最近の図書館サービスの動向にも触れ、これからの図書館サービスについても考察を深める。
	到達目標	これまで図書資料の保存収集が中心だった図書館業務は、図書館サイドが“図書館はサービス業”と認識しつつある。大きな変貌を遂げつつある図書館にとって、図書館サービスとは何だろうか。各種図書館におけるさまざまな図書館サービスを学び、図書館員としての資質と企画力・発想力を培う。
授業計画	(1) 図書館サービスの意義と目的 (2) 公共図書館における図書館サービス① (3) 公共図書館における図書館サービス② (4) 大学図書館における図書館サービス (5) 学校図書館における図書館サービス（小学校） (6) 学校図書館における図書館サービス（中学校） (7) 学校図書館における図書館サービス（高校） (8) 図書館サービスと図書館相互協力(1) (9) 図書館サービス（広報活動の実際①グループ学習 (10) 図書館サービスと図書館相互協力(2) (11) 図書館サービス①グループ学習 (12) 図書館サービス①グループ発表 (13) 図書館サービス②グループ学習 (14) 図書館サービス②グループ発表 (15) 図書館サービスの再検討と最近の動向	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出すること。
	事後学習	・授業終了時にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	金沢みどり 『ライブラリー図書館情報学 図書館サービス概論』学文社 2014年 ISBN 4762024238
成績評価の基準と方法	基準	各種図書館の特色・機能・役割を踏まえた図書館サービスについて理解したものは合格とする。
	方法	試験 60%、レポート 10%、発表 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報サービス論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館における情報サービスの意義、レファレンスサービス、情報検索サービスについて解説する。最近の公共図書館、学校図書館のレファレンス・サービスの主流の一つであるパスファインダーについても学ぶ。
	到達目標	図書館員として利用者から寄せられる質問等への回答（レファレンス業務）の基礎的な知識とスキルを習得する。テーマに即したパスファインダーを作成できるスキルを習得する。
授業計画	(1) 情報サービスとは何か (2) レファレンスサービスの現状 (3) さまざまな情報ニーズと図書館サービス (4) 図書館におけるレファレンスサービス (5) レファレンス・コレクションの構成 (6) レファレンス質問受付と内容の確認 (7) レファレンス・インタビューの技法と実際（グループ学習） (8) 探索方針の立て方と質問の分析方法 (9) 探索プロセスと情報の入手方法 (10) インターネットでの検索と問題点 (11) パスファインダーの作成①（事例研究） (12) パスファインダーの作成②（企画と実践） (13) パスファインダーの作成③（発表） (14) 図書館利用教育プログラムの構築①（グループ学習） (15) 図書館利用教育プログラムの構築②（グループ発表）	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布されているプリントに記載し提出する。
	事後学習	・授業終了時に毎回レポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	竹之内 禎【編著】『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 情報サービス論』学文社 2013年 ISBN 4762021947 ほか
成績評価の基準と方法	基準	レファレンスの基礎知識を習得したものは合格とします。
	方法	試験 50%、レポート 20%、発表 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	レファレンスサービス演習	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	科目情報 特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	「情報サービス」で学んだ内容を基に、参考業務（レファレンス）に関するスキルをさらに深める。さまざまなレファレンスに対する回答を学び知識を深め、レファレンスに対する処理能力を学ぶ。
	到達目標	①レファレンスに対するさまざまな情報源について学ぶ。②レファレンス業務の実践を通して、利用者の質問事項と参考図書を短時間に関連づけて回答出来るスキルを培う。
授業計画	(1) レファレンスサービスとは何だろう (2) レファレンスツールとメディア (3) 事実解説型レファレンスツール (4) 案内指示型レファレンスツール (5) 質問のタイプと情報源① (6) 質問のタイプと情報源② (7) 質問のタイプと情報源③ (8) 質問のタイプと情報源④ (9) レファレンスの具体例①（質問と回答） (10)レファレンスの具体例②（質問と回答） (11)レファレンス演習① (12)レファレンス演習② (13)レファレンス演習③ (14)レファレンス演習④ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布しているプリントに記載し提出する。
	事後学習	・授業終了後にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	木本幸子/木本幸子『新・図書館学シリーズ レファレンスサービス演習（改訂）』樹村房 2004年 ISBN4883670772
	参考文献	全国SLA『パスファインダーを作ろう』全国SLA 2012年 ISBN4-7933-2265-5
成績評価の基準と方法	基準	レファレンス業務の基礎を習得しているものは合格とします。
	方法	試験 60%、レポート 10%、発表 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報検索演習	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	情報検索について基礎的な概念を理解した上で、実際にコンピュータを用いて必要な情報を検索し、図書館司書として利用者に必要な情報をサービスできるよう基本的また実践的な技能を修得する
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースとは何か、理解できるようになる 2. 社会、特に図書館でのデータベース活用状況を把握する 3. 利用者の検索要求を分析し、情報を発信できるようになる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) コンピュータとデータベースについて (2) OPAC とはどのようなものか (3) WebcatPLUS とはどのようなものか (4) 国立国会図書館について (5) インターネット上の仮想図書館について (6) 図書館司書について考えてみよう (7) CD に入ったデータベース検索環境の設定 (8) 人物略歴情報の検索 (9) 雑誌記事情報の検索 (10) 図書内容情報の検索 (11) 新聞記事原報の検索 (12) 総合演習その 1 (13) 総合演習その 2 (14) 総合演習その 3 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・図書館とはどのような場所か、常に関心を持つようにする。
	事後学習	講義時間に検索しきれなかった問題にあたっておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	CD-ROM で学ぶ 情報検索の演習 新訂4版 (日外アソシエーツ) ISBN978-4-8169-2393-7
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	コンピュータを操作し、具体的な検索ができない場合は不合格とします。
	方法	11 回まで講義内容について小レポートを課し、12 回以降は総合演習問題について最終レポートを課します。(小レポート50%、最終レポート50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館情報資源概論	
担当者	吉田 英明 / YOSHIDA, Hideaki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館情報資源は多様なメディア（印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源）から構成されている。各種メディアの生産や流通を解説し、図書館コレクションの形成や提供の背景となる理論（資料の選択・収集・評価）や方法について学んでいただく。そのため、メディアの種類と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。
	到達目標	図書館資料の種類について学び、コレクション形成の理論、情報源、プロセスを学習する。また、主題分野ごとの情報資源とそれらの特性も理解する。図書館と密接に関わる出版社・取次を含む情報資源の生産・流通について理解を深め、文章化できるようになる。 図書館関係の採用試験問題に取り組むことで、同様の問題に対処できるようになる。
授業計画	(1) 図書館情報資源とは何か（定義と分類） (2) 印刷資料と非印刷資料（点字、録音、マイクロ、視聴覚資料）の種類と特質 (3) 電子資料、ネットワーク情報資源の種類と特質 (4) 地域資料、行政資料（政府刊行物）、灰色文献 (5) 情報資源の生産（出版）と流通（出版・書店業界の動向、再販制度） (6) 図書館業務と情報資源に関する知識（書誌的事項に関する基本的な知識を含む） (7) コレクション形成の理論（資料の選択・収集）と方法（選択ツールの利用、選定）、評価 (8) 資料の受入（装備・排架・展示）・除籍・保存・管理（書庫管理・劣化防止・蔵書点検等） (9) 図書館の理念と拮抗する権利関係（図書館の自由宣言、知る権利と著作権、検閲） (10) 人文・社会科学分野の情報資源とその特性 (11) 科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 (12) 電子ジャーナル（現状・将来・提供方法） (13) 電子ブック（現状・将来・提供方法） (14) 新しい情報・資料・メディアの収集、整理、利用等の留意点 (15) 図書館資料のライフサイクル	
自学自習	事前学習	配布資料について事前に目を通し、不明な点を明確にして授業に臨むこと。
	事後学習	授業の終わりに採用試験の過去問を課題として課し、授業に対する質問・要望・感想等を提出していただく。次回授業の初めに、問題の解説や質問要望等に対する応答を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布する資料（ファイル）を用いる。そのため、USBメモリ等、各自ファイルを保存するメディアを準備すること。
	参考文献	授業の中で案内します。
成績評価の基準と方法	基準	図書館情報資源の種類と特質について理解し、表現できれば合格とします。
	方法	試験 80%、課題提出と受講態度 20 %
備考	授業に対する質問・要望・感想等は、メール（資料表紙記載メールアドレス）で受け付ける。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館にある資料は、情報への適切かつ効率的なアクセスを可能にするために組織化されている。組織化に必要な知識について解説をする。
	到達目標	図書館における組織化に必要な技術である目録・分類等について取りあげるなかで、目録システムや主題別の組織化の仕組みについて理解する。
授業計画	(1) 図書館の機能と資料組織 (2) 資料組織業務 (3) 書誌コントロール (4) 書誌情報の作成・流通・管理 (5) コンピュータによる目録作成の実際 (6) 目録法の基礎 (7) 記述目録法の基礎 (8) 記述の単位と順序 (9) 記述目録作成の実際(1) (10) 記述目録作成の実際(2) (11) 主題目録法 (12) 分類の基礎 (13) 主題目録作成の実際(1) (14) 主題目録作成の実際(2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	柴田正美著『情報資源組織論』日本図書館協会 2012年 ISBN 978-4-8204-1202-1
	参考文献	日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会 2006年 ISBN 4-8204-0602-7 / 日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 1999年 ISBN 4-8204-9912-2 / もりきよし原編/日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 2014年 ISBN 978-4-8204-1413-1
成績評価の基準と方法	基準	テキストに記載されている資料の組織化に関する理解ができており、「情報資源組織演習」の受講に支障がない者を合格とする。
	方法	受講態度(10%) 課題への取り組み(20%)、期末に実施する筆記試験(70%)により評価を行う。
備考	「図書館概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織演習 I	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、記述目録法（目録作成作業）の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 ・ 『日本目録規則』にもとづく目録の記述および入力 ・ 標目の付与および排列
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 単行資料の記述・1 (3) 単行資料の記述・2 (4) 単行資料の記述・3 (5) その他の資料の記述・1 (6) その他の資料の記述・2 (7) 継続資料の記述・1 (8) 継続資料の記述・2 (9) 標目および排列の実際 (10)集中化・共同化による書誌データ作成の実際・1 (11)集中化・共同化による書誌データ作成の実際・2 (12)書誌データ管理・検索システムの構築 (13)ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際・1 (14)ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際・2 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 使用教材および参考文献を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美共著『情報資源組織演習』日本図書館協会 2014年 ISBN 978-4-8204-1317-2
	参考文献	日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会 2006年 ISBN 4-8204-0602-7
成績評価の基準と方法	基準	図書館における情報資源の組織化に関する基礎能力が身につけている者を合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する筆記試験（70%）により評価を行う。
備考	「情報資源組織論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織演習Ⅱ	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、主題目録法（分類・件名の付与）の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 ・ 主題分析 ・ 『日本十進分類法』を活用した分類の付与、『基本件名標目表』を活用した件名の付与
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 主題分析の理論 (3) 主題分析の実際・1 (4) 主題分析の実際・2 (5) 件名付与の理論 (6) 件名付与の実際・1 (7) 件名付与の実際・2 (8) 分類付与の理論 (9) 分類付与の実際・1 (10) 分類付与の実際・2 (11) 分類付与の実際・3 (12) 分類付与の実際・4 (13) 分類付与の実際・5 (14) 請求記号 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 使用教材および参考文献を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美共著『情報資源組織演習』日本図書館協会 2014年 ISBN 978-4-8204-1317-2
	参考文献	日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 1999年 ISBN 4-8204-9912-2 もりきよし原編/日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 2014年 ISBN 978-4-8204-1413-1
成績評価の基準と方法	基準	図書館における情報資源の組織化に関するの基礎能力が身につけている者を合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する筆記試験（70%）により評価を行う。
備考	「情報資源組織論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	児童サービス論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館における児童サービスは乳幼児から青少年まで幅広い年齢を対象として行われるサービスである。そのなかで扱われる資料やサービスについて解説をする。
	到達目標	児童サービスにおいて扱われる多種多様な資料やサービスの種類と方法、サービス対象者の特徴を理解する。また、子どもに対する読書教育の意義や児童サービス担当職員の役割について理解する。
授業計画	(1) 児童サービスとは何だろう (意義・理念・歴史) (2) 児童について (発達における読書の役割) (3) 児童資料① (絵本) (4) 児童資料② (その他の児童資料) (5) 児童サービスの実際① (資料の選択と提供) (6) 児童サービスの実際② (読み聞かせ、ブックトーク等) (7) 児童サービスの実際③ (エプロンシアター等) (8) 乳幼児の読書環境 (行政や公共図書館の取り組み) (9) ヤングアダルトサービスと資料 (世界の取り組み) (10) ヤングアダルトサービスと資料 (日本の取り組み) (11) 児童を対象としたレファレンスサービス① (12) 児童を対象としたレファレンスサービス② (13) 学校図書館 (児童図書館との相違等) (14) 公共図書館 (公共図書館、公民館におけるサービス) (15) 児童サービスとネットワーク (学校、家庭、地域の連携)	
自学自習	事前学習	・使用教材 (配布資料等) を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント (ハンドアウト) を用いる。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	児童サービスにおける基礎的な知識と技能を身につけたものを合格とする。
	方法	受講態度 (10%) 課題への取り組み (20%)、最終レポート (70%) により評価を行う。児童サービスにおける基礎的な知識と技能を身につけたものを合格とする。
備考	「図書館概論」および「図書館サービス概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書・図書館史	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	過去から現在、そして未来へと永続する書物の力を解き明かし、書物と図書館が社会的にどのような影響を与えてきたのか時代を追って学ぶ。
	到達目標	①書物の歴史を古代シュメールの粘土板に刻まれた文字から説き起こし、電子ブックに至るまで、識字率の増加や印刷・出版物の出現とともに、書物と図書館について、さらに「読む」ことの変遷も時代を追って学び理解する。 ②東京書籍館（国立国会図書館）の初代館長を務めた薩摩スチューデント町田久成の業績を学び日本の図書館の礎を理解する ③鹿児島県の図書館施策に大きな影響を与え日本の読書運動に功績を残した椋嶋十について学ぶ。
授業計画	(1) 書籍の力と魔力 (2) 古代と中世の世界(1)メソポタミア～日本の蛇腹式本 (3) 古代と中世の世界(2)古代仏教経典～ヘブライ語の書物 (4) 新たな印刷文化(1)グーテンベルグと聖書～地図帳と地図製作 (5) 新たな印刷文化(2)出版物～宗教裁判と禁書目録 (6) 啓蒙思想と大衆(1)西欧の読み書き能力～ディドロの「百科全書」 (7) 啓蒙思想と大衆(2)書物の芸術性～呼び売り本 (8) 出版者の登場(1)印刷の機械化～書店の台頭 (9) 出版者の登場(2)巡回文庫と図書館～浮世絵 (10)万人のための知識(1)新たな技術～ミルズ&ブーン出版社 (11)万人のための知識(2)日本のマンガ～本の挿絵とデザイン (12)書物の新時代(1)グローバルメディア～デジタル化のさらなる普及 (13)書物の新時代(2)書物の新時代 (14)日本の図書館の礎を築いた薩摩スチューデント、根占書籍館、鹿児島県立図書館と椋嶋十 (15)鹿児島県立図書館と椋嶋十の図書館施策	
自学自習	事前学習	・質問事項があれば、事前に配布してあるプリントに記載の上提出すること。
	事後学習	・授業の終わりに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	M・ライアンズ『本の歴史文化図鑑』終風舎 9500円 4903530598
成績評価の基準と方法	基準	・書物と図書館が社会的にどのような影響を与えたか全体の流れをつかめる。
	方法	・テスト70%、レポート30%、
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館サービス特論	
担当者	吉田 英明 / YOSHIDA, Hideaki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	図書館サービスの歴史的、法的・社会的背景、情報技術とのかかわり、図書館情報資源（資料）の生産・流通などを学び、図書館サービスと資料（情報資源）、利用者や図書館のステークホルダー（公立図書館であれば地方公共団体や納税者など）との関わりなど図書館サービスの諸相を学んでいただく。
	到達目標	図書館が抱える様々な事例をとおして図書館サービスの基本となる考え方を学び、どのような図書館づくりをしていけばよいかを考え、自分なりの理想的な図書館像を描くことができるようにする。 図書館関係の採用試験問題に取り組むことで、同様の問題に対処できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス、図書館サービス特論の進め方 (2) 図書館の役割（歴史とレビュー） (3) コミュニティと図書館 (4) 今日の課題（1）著作権、公貸権 (5) 今日の課題（2）図書館業務とDBMS (6) 今日の課題（3）書誌DBと情報検索の仕組み (7) 今日の課題（4）図書館業務のデータ構造 (8) 今日の課題（5）電子図書館的サービス (9) 今日の課題（6）利用者開放インターネットサービス (10) 事例研究（1）図書館情報資源（資料）の生産・流通 (11) 事例研究（2）指定管理者制度 (12) 事例研究（3）訴訟に見る図書館 (13) 事例研究（4）図書館サービスと人材育成 (14) 事例研究（5）図書館と博物館等、関連施設の連携 (15) 事例研究（6）住民による図書館支援の可能性	
自学自習	事前学習	配布資料について事前に目を通し、不明な点を明確にして授業に臨むこと。
	事後学習	授業の終わりに採用試験の過去問を課題として課し、授業に対する質問・要望・感想等を提出していただく。次回授業の初めに、問題の解説や質問要望等に対する応答を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布する資料（ファイル）を用いる。そのため、USBメモリ等、各自ファイルを保存するメディアを準備すること。
	参考文献	授業の中で案内します。
成績評価の基準と方法	基準	図書館に関係しそうな課題を把握し、理想的な図書館像を描くことができれば合格とします。
	方法	試験 80%、課題提出と受講態度 20 %
備考	図書館サービス概論を履修していることが望ましい。 授業に対する質問・要望・感想等は、メール（資料表紙記載メールアドレス）で受け付ける。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館情報資源特論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	さまざまな情報資源について理解し、図書館においてどのような利用がなされているのか解説する。また「図書館戦争」(有川浩著)でも話題となった図書館や知的自由をめぐる課題や問題点についても考察する。
	到達目標	①地域資料や学術資料等のの特性と利用法を理解する。 ②図書館情報資源に関する社会的な問題点を理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 地域資料の特性と利用法 (3) 地方行政資料 (4) 郷土資料① (5) 郷土資料② (6) 学術資料 (7) 学術情報と図書館 (8) 人文科学の情報資源 (9) 社会科学の情報資源 (10) 自然科学の情報資源 (11) 図書館情報資源と著作権 (12) 図書館情報資源と知的自由 (13) 図書館の自由 (14) 図書館の自由 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・質問事項があれば事前に配布しているプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業終了後にレポート提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	二村健(監修)『図書館情報資源概論～ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8』 2013年 学文社
成績評価の基準と方法	基準	地域資料・学術資料の特性と利用法を理解したものは合格とします
	方法	試験 70%、レポート 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校経営と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館はどのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろうか。「図書館は成長する有機体である」。これは図書館の父と呼ばれるランガナタンが提唱した図書館五原則の一つです。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。
	到達目標	1. 学校経営の中における学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ。 2. 従来の学校図書館の運営から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する。
授業計画	(1) 学校図書館の理念と教育的意義 (2) 世界・日本の学校図書館史 (3) 鹿児島県の学校図書館史 (4) 鹿児島県の学校図書館の現状 (5) 学校図書館法 (6) 学校経営の中の学校図書館 (7) 学校図書館の経営①（小学校） (8) 学校図書館の経営②（中学校） (9) 学校図書館の経営③（高校） (10) 学校図書館とネットワーク①PTA・地域との連携 (11) 学校図書館とネットワーク②公共図書館等の連携 (12) 学校図書館の施設・設備 (13) 学校図書館をデザインする (14) 学校図書館と司書教諭の役割 (15) 学校図書館の課題と展望	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布しているプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業終了後にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	野口武悟（等）『学校経営と学校図書館』 NHK 出版 2013年 ISBN 4595314513
成績評価の基準と方法	基準	「読書」「学習」「情報」センターとしての学校図書館とは何か、またその位置づけを理解しているものは合格とします。
	方法	試験 70%、レポート 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校図書館メディアの構成	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館は、児童および生徒の学習活動と読書活動を支える場所である。そこで、学校における教育活動に有益な学校図書館を上げるため、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について解説をする。
	到達目標	各種メディアの多様性を踏まえて学校図書館メディアの種類や性質をとらえ、学校図書館メディアの収集、整理、保存について理解する。
授業計画	(1) 学校図書館メディアの意義と役割 (2) 学校図書館メディアの種類と特性 (3) 学校図書館メディアの収集 (4) 学校図書館メディアの整理 (5) 目録作業の概要 (6) 目録作業の演習 1 (7) 目録作業の演習 2 (8) 主題分析の概要、件名付与の概要 (9) 件名付与の演習 (10) 分類作業の概要 (11) 分類作業の演習 1 (12) 分類作業の演習 2 (13) 学校図書館メディアの配架 (14) 学校図書館メディアの保存 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材（配布資料等）を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年 ISBN 4-8204-0602-7 / 日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会 1999 年 ISBN 4-8204-9912-2 / もりきよし原編 / 日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂 10 版』 日本図書館協会 2014 年 ISBN 978-4-8204-1413-1
成績評価の基準と方法	基準	学校図書館メディアに関する基礎的な知識と技能を身につけたものを合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する定期試験（70%）により評価を行う。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習指導と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館法に明記されている“教育課程の展開に寄与する”学校図書館とはどういうことだろう。学校図書館と教科の学習指導は今までどのように展開してきたのか実践事例を基に解説し、さらに今後の動向についても考察する。
	到達目標	①学習指導と学校図書館の利用について理解する。 ②学校図書館と情報サービスメディア活用能力を理解する。 ③教科支援と教師の連携について理解する。
授業計画	(1) 学校教育と学校図書館 (2) 学校図書館の利用指導 (3) 鹿児島県の学校図書館の変遷① (4) 鹿児島県の学校図書館の変遷② (5) 学習指導と学校図書館（小学校） (6) 学習指導と学校図書館（中学校） (7) 学習指導と学校図書館（高校） (8) 学校図書館と教師への支援 (9) 学校図書館と図書館情報教育 (10) 学校図書館と情報 (11) レファレンスサービス① (12) レファレンスサービス② (13) 教育的観点と知る権利としての図書館 (14) 学習／教育活動を支援する情報サービス (15) 学習指導における司書教諭の役割	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布したプリントに記載して提出する。
	事後学習	・授業終了時にレポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	細川照代 『新訂 学習指導と学校図書館』 NHK出版 2011年 ISBN 4595312250
成績評価の基準と方法	基準	学校図書館が取り組んでいる学習指導について現状を学び、これからの学習指導について考察できるものは合格とする。
	方法	試験 70%、レポート 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	読書と豊かな人間性	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	人類の知的遺産である“本”を読む楽しみ“読書”について考える。21世紀にはいり、読書は紙媒体による読書から電子図書等へと多様化している。そのような状況の中で、学校図書館では豊かな人間性を培うためにどのような取り組みがなされているのか小・中・高校の様々な実践例を基に「読書の取り組み」を学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と読書の歴史について学ぶ 2. 学校で行われている読書指導について学ぶ 3. 多様化する読書形態を学ぶ 4. 読書資料の種類と活用について学ぶ
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 読書の歴史（過去から現在までの読書観の変遷） (2) 図書館の歴史（学校図書館にたどり着くまで） (3) 小学校の読書指導（実践例から現状を知る） (4) 中学校の読書指導（実践例から現状を知る） (5) 高校の読書指導（実践例から現状を知る） (6) 学校における読書指導の考察（ディスカッション） (7) 新聞、雑誌等の 図書以外による読書資料について (8) 学校図書館とマンガ (9) 情報化社会と読書（電子図書等による読書形態の変化） (10) 読書の手がかり～読書の愉しさを知る“手法”を学ぶ1（アニメーション他） (11) 読書の手がかり～愉しさを知る“手法”を学ぶ2（ブックトーク他） (12) 読書の手がかり～読書手法の考察（ビブリオバトル） (13) 生徒図書委員会・教職員・保護者の連携(実践例から現状を学ぶ) (14) 家庭・地域のネットワーク化（鹿児島県の特色ある読書活動を学ぶ） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出すること。
	事後学習	・授業終了後レポートを提出する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	全国学校図書館協議会『シリーズ学校図書館学〈第4巻〉読書と豊かな人間性』全国SLA 2011年 ISBN4793322457
成績評価の基準と方法	基準	さまざまな読書手法について理解したものは合格とします。
	方法	試験 60%、レポート 10%、発表 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報メディアの活用	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在において図書館で情報メディアをどのように活用すべきか考える。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か、その概念を述べることができるようになる 2. 情報メディアの歴史を語れるようになる 3. 情報メディアの活用について考えることができるようになる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 情報ってなんだろう (2) 日本でラジオ放送がどのように誕生したか (3) インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくろう (4) テレビの誕生 (5) ラジオの歴史年表に重ねてみよう (6) 地上デジタル放送とは (7) 近未来のテレビ放送 (8) 映像の記録メディア (9) 南極からのハイビジョン生中継 (10) 月からのハイビジョン映像 (11) これからの情報メディアについて考えてみよう (12) 考察その1 (13) 考察その2 (14) 考察その3 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	情報メディアに関心を持ち各種メディアを観察しておくこと
	事後学習	講義内容を自身の問題ととらえ考察すること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。ビデオ教材やWebを活用する。
	参考文献	「情報メディアの意義と活用」 (樹村房) 大串夏身編著
成績評価の基準と方法	基準	情報とメディアについて理解ができてない場合は不合格とする
	方法	11回まで講義内容について小レポートを課し、12回以降は最終レポートを課します。(小レポート50%、最終レポート50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館概論	
担当者	岩川 拓夫/ IWAKAWA, Takuo	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館とは何か。博物館の目的と機能、博物館に関する法規、学芸員の職務などを通して基礎的知識と課題を理解し、高度情報化社会に対応する新しい博物館のあり方を考える。
	到達目標	博物館の歴史や役割の変化を学び、博物館が学校教育・生涯学習に果たす役割を理解する。さらに、博物館が現代社会に果たす多様な役割と目的を認識する。
授業計画	(1) 博物館の基本属性（館種、設置者、法区分）と特性（所在地、展示資料） (2) 博物館の起源と歴史、関係法規 (3) 博物館の組織と運営 (4) 博物館の展示（展示意図、展示場所、展示期間） (5) 博物館の目的（博物館法、各種博物館とその特質） (6) 博物館の機能（資料収集、保存展示、調査・研究、教育普及） (7) 学芸員の職務1（収集・保管・調査・研究） (8) 学芸員の職務2（常設展示事業と体験学習） (9) 学芸員の職務3（特別展の実際－企画構想から展示会開催迄） (10) 学芸員の職務4（特別展図録作成） (11) 博物館と学校教育・地域社会・生涯学習 (12) 博物館相互等の連携（大学、研究機関、博物館－資料、研究、派遣） (13) 博物館の現状と課題（コンプライアンス、危機管理、情報の保護・管理） (14) 博物館の収蔵資料情報（資料台帳、データベース化） (15) 補足とまとめ ※あくまで予定です。進捗状況や学生のスキルに応じて適宜変更します。	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：各講義終了後、小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書・指定文献は『新時代の博物館学』芙蓉書房出版(本体 1900 円＋税)を使用。
	参考文献	適宜プリントを配布します。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて「博物館の意義や役割が理解できた者を合格」とします。
	方法	受講態度および小レポート 60%、修了試験 40%。
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館経営論	
担当者	岩川 拓夫/ IWAKAWA, Takuo	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	この授業では博物館の経営について取り上げる。博物館における経営の意義と方法、博物館行政の制度と組織、施設の運営と管理、博物館と社会連携、経営の実際と課題などについて解説する。
	到達目標	博物館における経営と組織、施設・設備、経営の実際、利用者サービスなどについて学び、学芸員としてふさわしい博物館の経営に関する知識の習得を目的とする。
授業計画	(1) 博物館経営の意義と必要性 (2) 博物館運営方法の制度的な変化 (3) ミュージアムマーケティングと博物館評価 (4) 博物館の法と制度 (5) 国・地方自治体の博物館行政 (6) 博物館の運営組織 (7) 博物館の運営－建築と設備－ (8) 博物館の管理体制 (9) 博物館と社会連携 (10) 博物館の広報活動と学習支援 (11) 博物館のネットワーク活動 (12) 博物館のホスピタリティーサービス (13) 博物館経営の実際 (14) 博物館経営の課題 (15) 総まとめ ※あくまで予定です。進捗状況や学生のスキルに応じて適宜変更します。	
自学自習	事前学習	・「参考文献」等を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：必要に応じ小レポート（3回）を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本部会『新時代の博物館学』芙蓉書房
成績評価の基準と方法	基準	博物館経営論に関する知識の概略が理解できたものを合格とする。
	方法	受講態度および小レポート 60%、修了試験 40%。
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館資料論	
担当者	山下 廣幸 / YAMASHITA, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館資料の意義、資料収集の理念と方法及び資料化の手順等について学び、あわせて薩摩の美術・工芸資料を通して博物館資料の本質を理解する。
	到達目標	博物館の大きな使命の一つが資料を収集し、保存し、それらを未来へ伝達することであるが、収集した「モノ」を「博物館資料」に資料化する手順を理解し、収集した資料を適切に保存し、そして展示に活用できるようになる。 また、地元薩摩の美術・工芸資料についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) 博物館・学芸員の仕事（オリエンテーション） (2) 博物館における資料の意義 (3) 資料収集の理念と方法 (4) 資料化の手順 (5) 資料の分類・整理 (6) 資料の保存 (7) 博物館資料の取扱いと輸送 (8) 資料の展示と活用 (9) 二次資料（レプリカ）の製作と活用 (10) 博物館資料の危機管理 (11) 薩摩の美術・工芸資料 やきものの基本と薩摩焼① (12) 薩摩の美術・工芸資料 やきものの基本と薩摩焼② (13) 薩摩の美術・工芸資料 日本刀鑑賞の基本と薩摩刀① (14) 薩摩の美術・工芸資料 日本刀鑑賞の基本と薩摩刀② (15) 薩摩の美術・工芸資料 薩摩画壇の絵師	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回授業終了後、授業内容の理解度をみるためにショートレポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。
	参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本支部編『新しい博物館学』、芙蓉書房出版、2008年 ISBN 978-4-8295-0416-1
成績評価の基準と方法	基準	博物館資料の意義とその資料化の手順及び活用について理解できたら合格とします。
	方法	毎回授業後のショートレポート（30点）と終了試験（70点）で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館実習 I	
担当者	新名 一仁 / N I I N A, Kazuhito	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 実習 / 1単位 / 3年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館学芸員として修得すべき知識を実践的に体験することを目的とし、博物館実習以前に基礎的知識と実践能力を獲得すると共に、学芸員間に必要な協調と連携能力を身に付ける。
	到達目標	博物館の実務に必要な基礎知識や技術を修得し、即戦力を身に付ける。学芸員の業務全体を理解し、実践的・体験的に学ぶ。
授業計画	(1) 博物館実習の目的 (2) 展示環境の基礎知識 (3) 歴史資料を学ぶ 1－中世文書の形状と書式 (4) 歴史資料を読む 2－近世文書の形状と書式 (5) 企画展の立案・準備 1 (6) 企画展の立案・準備 2 (7) 資料の取扱い 1－軸装・卷子（講義・実習） (8) 資料の取扱い 2－拓本の取り方（実習） (9) 資料の取扱い 3－文書の取り扱い、資料の梱包（実習） (10) 資料の取扱い 4－資料の撮影（実習） (11) 歴史資料の解読 1－中世文書を読む (12) 歴史資料の解読 2－近世文書を読む (13) 見学実習 (14) 見学実習 (15) 補足と総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の最後に、講義内容に関するレポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	『新時代の博物館学』芙蓉書房出版
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて「博物館の基礎的知識および技術を理解できた者を合格」とする。
	方法	毎回課すレポートと博物館見学ノート評価 80%、授業準備と態度 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル